

木津川市国土強靱化地域計画（案）に係るパブリックコメント実施結果（意見提出及び市の考え方）

- 1 公表期間 令和2年2月3日(月曜日)から令和2年3月3日(火曜日)まで
- 2 計画（案）に対する意見の提出結果 3人(12項目)
- 3 提出された意見及び市の考え（下表ページ欄には、計画案のページ数を記載しています。）

No.	計画案での該当箇所			種別	意見提出	市の考え	対応
	章	項目	ページ				
1	第4章	[個別施策分野] (10) 国土保全 ア 推進方針と主 管部局	30	要望	河原区～西区の木津川右岸 ・無堤防の解消と内水の排水設備	推進項目の「総合的な治水対策」内の推進方針に「～国、府と連携・協働しながら、降雨による浸水の発生を抑制し、浸水による被害を軽減するため、総合的治水対策の推進を検討する。」、また、推進項目「河川、下水道等施設の整備・耐震化」内の推進方針「木津川について、国や府と連携して木津川整備に関する要望、協議及び実行など、積極的に協力する。」とあり、ご意見の内容について包含されることから、計画内容の修正は行いません。	
2	第4章	[個別施策分野] (10) 国土保全 ア 推進方針と主 管部局	29	要望	河原区～西区の木津川右岸 ・左岸(法華寺野区)に堆積した砂礫除去により、右岸側に片寄った流れを変える。 (3年前には、多くの農地と一部農小屋が浸水した。)	同上	

No.	計画案での該当箇所			種別	意見提出	市の考え	対応
	章	項目	ページ				
3	第4章	[個別施策分野] (9) 農林水産 (12) 土地利用(国土利用) ア 推進方針と主管部局	29 32	要望	西、保田、他(湧水地帯) ・無秩序な造成を規制し、農地保全を図る。	(9) 農林水産の推進項目「農地・農業用施設の防災対策」内の推進方針に「農地の荒廃や崩壊を防ぎ、農業用排水路等を適正に管理・保全して二次災害を防止するための対策を支援するとともに、農業者のみならず、地域住民や都市住民の多様な参画による共同活動を継続的に支援する。」、また、(12) 土地利用(国土利用)の推進項目「農地・農業用施設の防災対策」内の推進方針「災害リスクの高い地域について、規制の対象となる建築物等の用途・構造が災害の特性や地域の状況等に即したものとなるよう配慮した上で、土地の利用を適切に制限する～」とあり、ご意見の内容が包含されることから、計画の修正は行いません。	
4	第4章	[個別施策分野] (10) 国土保全 ア 推進方針と主管部局	31	要望	西区の裏山 ・畑、森林の荒廃、竹林化による大雨時の土砂崩れ、鉄砲水を防止する為、堰堤の増設。	推進項目の「総合的な土砂災害対策」内の推進方針「府が推進する砂防えん堤、土石流対策施設、地すべり防止施設、急傾斜地崩壊防止施設等の土砂災害防止施設等の整備といったハード整備の着実な推進にあわせて、土砂災害警戒区域等の指定、土砂災害警戒情報や土砂災害ハザードマップ等の各種防災情報の提供、市民の防災意識の向上のための啓発活動等の対策に、市は積極的に協力する。」に包含されることから、計画の修正は行いません。	
5	第1章	2 木津川市国土強靱化地域計画の基本的な考え方	4	提案	～「台風19号に伴う豪雨災害等」に続いて「大規模な災害が多発している。また木津川市においても、昭和28年南山城災害(死者31名を出した8月のすべての天井川の決壊と9月台風)で甚大な被害を経験してきた。これら過去の災害から得られた教訓を最大限活用しつつ、以下の方針に基づき推進する。」に変更する。	この項においては、本計画の基本的な方針を設定するにあたり、最近の具体的な災害についての記述に留めています。ご指摘の昭和28年の南山城災害については、後述の第3章1想定するリスク(2) 豪雨等による土砂災害・風水害等の中で、記述しており、本項での計画の修正は行いません。	

No.	計画案での該当箇所			種別	意見提出	市の考え	対応
	章	項目	ページ				
6	第3章	1 想定するリスク (1) 地震	9	提案	3行目「木津川市では、奈良盆地東縁断層帯、木津川断層帯、和束谷断層帯等が走り、」を挿入する。	ご提案の内容を参考に、以下の通り、一部修正させていただきます。 「また、木津川市では、奈良盆地東縁断層帯、木津川断層帯、和束谷断層帯等が走り、国は、「奈良盆地東縁断層帯」における地震の発生確率・・・」	一部修正
7	第3章	1 想定するリスク (2) 豪雨等による土砂災害・風水害等	11	提案	3行目「特に、上流部の山間地で1189箇所にも及ぶ林地崩壊で土石流が発生し、天井川が悉く決壊した」、を挿入し、「山城地域での・・・」へと続ける。	ご提案の内容を参考に、以下の通り、一部修正させていただきます。 「特に、山城地域での被害が大きく、木津川支川の上流部の山間地で1189箇所にも及ぶ林地崩壊で発生した土石流により、天井川が悉く決壊し、死者31名の犠牲者が出る大惨事となった(南山城水害)。」	一部修正
8	第4章	3 共通事項 個別政策分野 (6) 情報通信の イ 主な事業	25	提案	市内各地域の実情に合わせたハザードマップの作成に向けた取り組み」の項を追加。理由は京都府作成のハザードマップは、木津川の氾濫をもとにしたマップであり、地域の地勢的な事情を組み込んでいない。例えば山城地域でいえば、天井川に起因する点が考慮されていない。それぞれの地域の事情を勘案して作られるべきである。	洪水ハザードマップの作成については、(10)国土保全ア推進方針と主管部局の推進項目「洪水ハザードマップ作成等」に記述していますが、主な事業としては、記述しておりません。 すでにハザードマップについては、策定、見直しを継続して実施し、最新情報をご提示できるように努めておりますことから、計画の修正は行いません。 京都府と協力して「地域と連携した鳴子川タイムライン」について、取り組んでいるところです。今後も、引き続き各地域ごとのタイムラインの策定に取り組む予定です。	

No.	計画案での該当箇所			種別	意見提出	市の考え	対応
	章	項目	ページ				
9	第4章	3 共通事項 個別政策分野 (10) 国土保全 ア 推進方針と主管部 局等 総合的な治水対策	30	提案	4行目「災害が発生し」以下を省略し、また京都府の河川堤防の強度は、30年に1度の降雨量を基準に作られている。しかし、京都府のハザードマップの降雨量基準は735ミリが現実的に起こりうる降雨量としており、近年の異常気象の実態とも大きく乖離している。国、府と連携しながらこれらの降雨による水害、浸水等の被害を防止するため、全力で取り組みを進めていかなければならない。」を加える。	ご提案の内容を参考に、以下の通り、一部修正いたします。 「・・・災害が発生していることから国・府と連携・協働しながら、降雨による浸水の発生を抑制し、浸水による被害を軽減するため、総合的な治水対策を推進する。」ご提案の中に含まれる堤防の強度に関しては、推進方針として記述にはそぐわないと判断し、上記の表現としました。	一部修正
10	第4章	3 共通事項 個別政策分野 (10) 国土保全 ア 推進方針と主管部 局等 洪水ハザードマップ 作成等	31	提案	1行目、初めに「各地域の地勢的事情に合わせた」を加える。 6行目 最後に、「市の指定する避難場所が地域の実情にそぐわない場合は、民間の施設等も含め安全な避難場所を検討し、協力施設と協定を締結する等の検討をしていかなければならない。」を追加。	No.8で記述しておりますとおり、洪水ハザードマップの作成については、すでに、策定、見直しを継続して実施し、最新情報をご提示できるように努めておりますことから、計画の修正は行いません。 また、現在指定している避難所のほかに、地域で定める避難所の指定について、個別に対応させていただきますので、本計画には記述しません。	
11	第4章	3 共通事項 個別政策分野 (12) 土地利用(国土利用) 安心・安全を実現する国土利用	32	提案	3行目「配慮したうえで、」に続き「またこれまで甚大な災害を起こした地域の林地開発等も」を挿入する。	「災害リスクの高い地域について、規制の対象となる建築物等の用途・構造が災害の特性や地域の状況等に即したものとなるよう配慮した上で、土地の利用を適切に制限するとともに、・・・」とありますことから、これまで甚大な災害を起こした地域とは、災害リスクの高い地域として含むことから、計画の修正は、行いません。	

No.	計画案での該当箇所			種別	意見提出	市の考え	対応
	章	項目	ページ				
12	第4章	3 共通事項 横断的分野 (2) 人材育成 市民に対する教育・ 訓練	35	提案	<p>小学校では、防災教育・訓練が行われているが、放課後児童クラブでは、行われていない。</p> <p>放課後児童クラブは、市役所や学校がお休みの土曜日にも開室しているので、学校とは別に防災教育・訓練を行うべきである。放課後児童クラブで、市の防災出前講座や消防署職員による防災訓練をおこなって欲しい。</p> <p>消防団員を増やすために、総務省の学生消防団活動認証制度を広報やチラシ等で告知し、活動内容を広く知ってもらおうと思います。</p>	<p>「将来を担う児童・生徒等を対象とした防災教育を積極的に実施する。」と推進方針で記述しておりますことから、計画の修正は行いません。</p> <p>ご指摘の放課後児童クラブでの防災教育・訓練については、開設している時間帯や教室に応じた防災教育・訓練を実施していきます。</p> <p>また、消防団に関するご提案につきましては、消防団の活性化も含め、今後の業務の参考とさせていただきます。</p>	